

大通商店街へ。

若者のアイデアで、シニア世代を呼び込める



盛岡市を代表する大規模商店街として親しまれている大通商店街。ここ数年は日中開店する小売店の減少に悩む中、まちなか交流人口増加に向けた大通商店街協同組合の取り組み、今後の構想を伺います。

参加者と観客との一体感が持ち味の「YOSAKOIさんさ」

60年の節目を迎えた 大通商店街

盛岡市の中心部に位置する大通商店街は、昭和6年に大通振興会としてスタート。盛岡城跡の外側に広がる旧藩主領の菜園およそ2万坪を埋め立て、盛岡の中心市街地振興に向けて開発された大規模商店街であり、他地区に店を構えていた事業者も多く移り住みました。昭和32年には大通商店街協同組合を設立。今年で61年目を迎えます。

そして、現在。盛岡駅から続く大通り3丁目から「サンビル」のある1丁目まで、600メートルに渡って店舗を連ねる大通商店街は、春先から週末の歩行者天国を生かした屋外イベントが増えていきます。5月28日(日)には20回目となる「YOSAKOIさんさ」も開催。札幌の「YOSAKOIソーラン」や本場・高知の「よさこい祭り」と違って小規模ながら、初心者チームも参加しやすいことが特徴の一つです。総勢40組を超えるYOSAKOI団体のパフォーマン스는臨場感にあふれ、参加チームからも「お客さんの笑顔を近くで感じられるのがいい」と好評なのだそうです。

しかし、「YOSAKOIさんさ」がスタートした20年前と比べて、大通りの様子もずいぶん変わってきました。100軒近い店舗が連なるアーケードには、かつて衣料品や生

活用品等の小売店が多かったのですが、現在は小売店が33軒まで減り、逆に居酒屋等の飲食店が増加。多くの商店街がそうであるように、大通りも「昼の賑わいづくり」を課題に取り組んできました。そんな中、各個店の魅力だけに頼らず、さまざまな活動を進めてきた大通商店街協同組合。理事長を務める吉田莞爾さんは、今年は商店街のあり方を一から考え直していく年だと話します。

若い世代のアイデアと パワーを借りる

「十数年前から全国各地に郊外型の大型商業施設が建設され、街の空洞化が問題となりました。中心市街地をどう活性化するか、これはどこの商店街にとっても長年のテーマです。私自身、まちづくりとはその町に住んで初めてできることだと思っています。だからこそこれまで、若い世代が大通りに来てくれる



「数は少ない中で頑張る3代目に、まちをしっかり引き継げるように」と吉田莞爾さん

ようにと訴えてきたわけですが、大手チェーンの飲食業やサービス業が1階の路面に店舗を構え、地元事業者がどんどん減っている現実に変えがたい。これまでは、『若い人に住んでもらい、足を運んでもらなくては』と思ってきたのですが、1年ほど前から少し視点を変えてみました。シニア世代が遊びに来て和んでくれるような通りを作り、そのサポートを若い世代にやってもらえないかと』。

シニア世代がくつろげるまちへ

同商店街は、「YOSAKOIさんさ」のボランティア活動をきっかけに、MCL専門学校グループとの交流を深めてきました。その関わりをさらに生かすべく、まちの運営に若者ならではの発想を取り入れたと吉田さんは話します。さつそく、「サンビル」1階の喫茶ブースを活用して、「盛岡カレッジオブビジネス」の学生が作るスイーツを販売する企画が進んでいるそう。で、「シニア世代がスイーツを楽しみながら休憩できるような空間になればいい」と構想をめぐらせます。これまで、MCLグループの学生は商店街のイベント運営スタッフとして数々の場で力を発揮してきましたが、継続的に対面販売できる場は初めてのことで、学生にとっても学びを実践する貴重なチャンスにな



5月に開催される「親子お絵かき大会」は、今年で30回目の長寿イベント

りそうです。

また、大通1丁目には場外勝馬投票券発売所「UMACCO」が設置されており、競馬開催日の1日平均利用者は200人ほどですが、その多くが70代以上であるといわれています。

「競馬をしながら長時間滞在することを嫌がる店舗もありますが、競馬をきっかけに近隣の高齢者たちが大通りへ足を運び、カフェで語り、買い物を楽しみながら人との交流を図ることは健康維持にもつながります。まちとして高齢者が足を運びやすくなる取り組みを進める価値は大きいのでは」と吉田さん。大通りには完全にシャッターを下ろした店も3軒ほどあり、「そういう店を試しに光熱費程度で貸して

いただき、近隣マンション住まいの高齢者が楽しめる場にしていければいいのですが」と続けます。それに伴って、バス路線の拡充、買物物の配達システムや荷物の預かりサービス等のしくみも必要です。課題はもちろんありますが、まちを利用してほしい人の「顔」が明確になれば、アイデアもより具体的になりそうです。

駅から大通りへ、そして菜園へ一体的に考える

さらに、内丸の医大跡地の活用方法について一つの考え方を吉田さんは話します。

「医大跡地は盛岡全体における人の流れを考えるうえで、非常に重要な役割を持っています。私自身は跡地の周辺道路整備を進め、バスセンターを建設して2階や3階に医療機関を整備してはどうかと思っております。大通りの将来を検討するにあたって、当然ながら近隣の商業施設や商店街とのつながりを考慮した斬新な思考が必要になります。私たちも、大通・菜園地域が一体となって魅力あるゾーンづくりを進めようと、『もりおかスクエア』として取り組んできました。学生を含め、若い世代にも一つの商店街に縛られない発想でまちを盛りあげてくれることを期待しています」。

街はステイジ」という大通商店街のキャッチフレーズ。それを象徴

するように、最近は大通りを舞台にした外部主催の企画も増えていきます。去年始まったご当地アイドルの音楽イベント「盛岡大通ちよいフェス」も、今年は毎月開催される予定。大通りを訪れる客層が広がります。まちなかには「もりおか子育て応援プラザ」が4月にオープン、リニューアル中の「メガネクラブ」も夏に再開するなど、新しい動きも見えています。小さくても確かな風は着実に次へとつながるもの。イベント実施の手続きや運営に関する相談も、大通商店街協同組合で受け付けています。



大通商店街は道幅もちょうど良く舗道もあるので、「観る」イベントにはぴったり